

～子供たちの夢をかなえる教師になる！～

東京教師養成塾通信

発行日 令和2年12月28日
＜第5号＞
発行元 東京都教職員研修センター
研修部教育開発課
電話 03-5802-0318

●第10回教科等指導力養成講座

令和2年12月5日（土）に、教職員研修センターにて、第10回教科等指導力養成講座を実施しました。本講座の午前中は、公開講座に位置付けられており、23の連携大学から139名の学生が参加し、講座や班協議の様子を見学しました。

高瀬主任指導主事の挨拶では、第17期生の最後の講座に向けて、「人が成長するためには一つ一つの節目を大切にすることが重要である。」というお話しがありました。

【小学校コース】

特別活動の講座では、養成塾の上野教授、近谷教授、福島教授からの講義演習を通して、年度始めの学級経営と学級活動の具体的内容について学びました。

後半では、「学級目標づくり」や「係活動」において指導する上での留意点を演習形式で行いました。塾生は、年度始めに必要な学級経営のポイントについて理解を深めました。

【特別支援学校コース】

「キャリア教育～社会自立・参加を目指した授業づくり～」では、東京家政大学の半澤 嘉博教授より、特別支援学校におけるキャリア教育を通して育む資質・能力、交流及び共同学習の重要性について学びました。家庭と教育と福祉とが連携して取り組む「トライアングル」プロジェクトを通じた個別の支援計画を活用した切れ目のない支援体制の具体例を説明いただき、塾生は小学部段階から計画的にキャリア教育に取り組むことの重要性を理解しました。

【全員共通】

「教師として歩いていくにあたって」の講義では、高瀬主任指導主事より、養成塾での学びの振り返りと今後教師として歩いていく上での心構えについてお話しがありました。

塾生は、講義の中で「なぜ教師になろうと思ったのか。」「どのような教師を目指すのか。」について改めて考え、教師への思いを新たにしていました。

「東京都の特別支援教育」の講義では、桑田統括指導主事より、東京都の特別支援教育の動向と発達障害のある児童・生徒の特性について実際の体験的活動を取り入れながら、学びを深めていました。

塾生は、学級の中におけるユニバーサルデザインを取り入れた教室環境の整備や授業の工夫など、誰もが学びやすく分かりやすい授業にするためのポイントについて理解しました。



＜特別活動の講座＞



＜キャリア教育の講座＞



＜教師として歩いていくにあたって＞



＜東京都の特別支援教育＞

【塾生の感想より】

- ・ 学級の目標は、児童の言葉、考えを基に作成することで児童の意識を高められることを学んだ。
- ・ 当番活動や係活動の充実を図るためには、日々の学級経営の充実が重要であることを学んだ。
- ・ 特別支援の講座では、困難を抱えている児童が刺激を受けやすいことを体験から学ぶことができた。
- ・ 教師という仕事を見つめなおすことができた。また、今後自分がどのような教師になりたいかについても明確にすることができた。
- ・ 特別支援学校におけるキャリア教育では、技術だけでなく、社会に自ら参加しようとする気持ちを育てることが重要であることを学んだ。
- ・ 児童の卒業後の進路についての観点と交流及び共同学習の観点から、進路の可能性を広げることが大切であることを学んだ。

● 塾生同士の授業参観

東京教師養成塾では、教師養成指定校の御理解、御協力をいただきながら、塾生同士の授業参観を行っています。

塾生同士が授業を参観し、参観後には授業についての協議を行う中で実践的な指導力の一層の充実を図ることを目的としています。

授業後の協議では、発問や子供への声掛け、教材の提示方法やタイミング、話し合い活動等、授業改善の視点から塾生が意見を交わしながら、協議を深めています。学んだことを、自身の授業実践に生かそうとしています。



<代表塾生による授業実践>



<協議会の様子>

【塾生の感想より】

<体育科の授業参観を通して>

- 今回の授業参観の中で学んだことは、児童自身が主体的に学ぶことができる授業の流れや工夫である。協議会の中で、運動時間の確保や認知学習場面があることは、児童の意欲にもつながることを理解した。私が、今後生かしていきたいことは称賛や励ましの声掛けを適切に行うことである。授業参観後は、特別教育実習において、机間指導や全体指導を意識して、賞賛や声掛けを行った。授業中の挙手や児童同士の声掛けが増えてきたことを実感している。

<国語科の授業参観を通して>

- 「自分が授業者であったらどうするか。」を意識しながら、授業参観をすることができた。「話し合い活動をどの場面で取り入れるか。」や「一年生では、本文の内容を理解させるために動作化させることも有効ではないか。」など、様々な学びを得る機会をいただいた。また、同じ塾生が授業に臨む姿を見て、研鑽を積んでいきたいと強く感じている。

<道徳科の授業参観を通して>

- 学習指導案を書く際は、学習指導要領を基に、授業者が明確な指導の意図をもつことが重要である。明確な指導の意図をもつことで、本時のねらいに迫るための発問の構成や教材提示、導入や終末の工夫などを適切に設定することができることを学んだ。実際に授業を参観して、教材提示や板書、ワークシートなどの様々な工夫を学ぶことができた。

● 班協議について

年間10日の教科等指導力養成講座では、実践的な指導力の向上をねらいとして、講義・演習及び班協議を通して学びを深めています。

講座を通して学んだことや特別教育実習に生かしていきたいことなどを基に、塾生が司会・記録を担当し、話し合いを塾生主体で進めています。

講座で塾生一人一人が学んだことを話し合うことで、塾生本人が獲得した学びを確かなものとし、特別教育実習に生かすことができることから、重要な役割を果たしています。

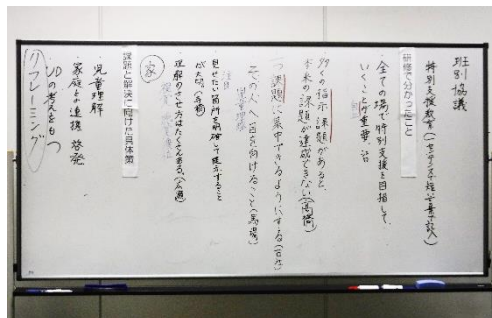
班協議も講座を重ねることで、様々なテーマを踏まえた意見を交わせるようになり、主体的に理解を深めています。



<班協議の様子1>



<班協議の様子2>



<班別協議の記録>